

グリーン経営認証取得の成果の紹介

認証取得後1年目の定期審査時のアンケート項目「特に成果のあった取組」について寄せられた皆様の声をご紹介します。
(2023.4.19～2023.5.31)

【バス事業】

内	容
	<p>・グリーン経営認証の取組みの推進体制で分担や班分けで責任者を設定したことにより、今までになかった責任感を持って環境に対する意識の向上が図れた。目に見えないところでは、インバウンド観光客をターゲットにしていることから、環境問題に敏感なインバウンドの方に対してPRに繋がる。また、インバウンド観光客をターゲットにしている旅行会社に対してPRできる。</p>

【タクシー事業】

内	容
	<p>・社内ポスター掲示や明番研修会等にて、不要照明の消灯教育を実施いたしました。特に燃料費高騰も重なり効果があったと思います。また、乗務員点呼場には三種のポスター掲示を活用し、点呼時にエコドライブやアイドリングストップを指導を継続して行うことにより、構内での無駄なアイドリングは無くなりました。</p>
	<p>・社内研修により、エコドライブ・アイドリングストップ、点検整備、環境保全などに関する意識が向上いたしました。グリーン経営を取得しているということで、お客様から一定の評価を頂いており、信頼度が向上いたしました。</p>
	<p>・グリーン経営認証を取得していることで、得意先より評価を頂いています。従業員の環境に対する意識が向上しました。</p>

【トラック事業】

内	容
・燃費の向上について：車両ごとの燃費実績を提示することで、ドライバーのエコ運転に対する意識が高まり、燃費の向上につながっている。	
・エコドライブ支援システムの導入や車両点検によるトラブルの事前予防に特に効果を実感しています。システムを意識した運転を心がけることで燃費等も改善でき、綿密な車両点検により車両トラブルによる事故を防ぐことはもちろんヒヤリハットを減少させることにもつながりました。	
・燃費の向上の為の教育資料と意識改革につながった	
・エコドライブ実施で交通事故の件数が減少	
・燃費の把握、交換時期の把握。	
・燃料集計やメンテナンス情報を通じて、車両に関するあらゆる情報の精通把握に貢献している。	
・大きな成果としては、大型車輛の燃費の向上でした。	
・各自各車に燃料の集計表を取るようになり燃費への意識向上がみられるようになった。	
・現状通り、環境 特に燃費向上に向け、取り組んでいます。不在時の消灯。	
・車両別の燃費グラフを毎月更新して掲示することにより、他車と比較することができるので自分の運転を振り返り、エコドライブへの意識を高めることができている。	
・掲示物等でエコに関する意識が高まり、所員全員が取り組んでいる。	
・エコドライブを実施することにより、必然的に車間距離など十分にとる運転になることにより明らかに事故件数の削減に繋がっている。	
・グループミーティングでの意見等が上手に伝達できていないため一方通行の報告会になっていた。時間をかけて見守りその報告をなるべく実現化できるようにしている。（職場環境も含め）	
・燃費向上に対する意識等は、社内において共有出来たかと思えます。	
・毎月、「洗車・清掃記録簿」・「点検整備記録表」を作成し、全てのトラックでドライバー自身で相互にチェックする事を徹底したところ、車両の故障やトラブルが激減し、ドライバーの車両整備の意識向上に大きな役割を果たしていると感じています。	
・点検整備関係は班長主体に取り組んでいるが、今後はドライバー全体に浸透させ、環境問題に対する意識向上を図ってきたい。	
・ドライバーの車両に対する意識が向上しました。燃費向上の意識を入口に、車両全般のメンテナンスに意識が向いたドライバーが増えてきたことで、年間の車両修理件数が減ってきています。	
・距離または期間による定期的なメンテナンスを行う事により、オイルや水漏れなど大きなダメージを負う車両の故障件数が減った。	
・燃費を意識し、速度を落とすことで重大な事故は無くなった。但し、駐車時の幅寄せなどで看板への接触は相変わらず発生。	
・燃費の向上について、毎月一回実績を掲示し、前月より悪化している人への個別指導を行いました。計画以上の成果はありませんでした。一方、年間通して低燃費走行に最も貢献した社員へ表彰制度を独自に作り、職場の活性化を図りました。	
・燃費向上：車に負荷のかかる急加速、急減速、空ぶかしを意識して改善。	
・毎月の燃費結果を集計し、集計結果を掲示することで以前に比べて燃費に対する意識が向上した。	
・目標燃費を設定し、たとえ達成できなくても、毎月のエコドライブ教育をすることで、燃費に対する意識は向上している。	
・各車両担当乗務員がオイル交換時期を意識するようになった。	
・交通に関する苦情は減った。	
・管理者による同乗指導・パトロールと併せ、ドライブレコーダーでの日常の運転、危険操作・動作のチェック	
・ストレッチフィルムを無駄に使わないために必要なときは使い切った芯と交換するようにした。その際消耗品受払簿に記入するようにした。これにより、不必要な分まで持ち歩かなくなり置き忘れ、中途半端で廃棄してしまう等がなくなった。また、ストレッチフィルムの芯も最後まで使い切ることでリサイクルとして業者に引き渡すことができるようになった。	
・燃費から走行の仕方にも各ドライバーが気をつけているようにも微かに思うときもある。	
・社内での勉強会にて燃費向上についての教育を行った結果、車両の故障の割合が減りました。	
・社内報に毎月のエコ目標などを入れることで、乗務員や管理者の各車両の燃費等の管理意識向上へ寄与。	
・燃費をこれまで以上に意識し、運転日報に印刷される燃費を確認するようにしたことで、燃費改善できたと感じます。	

【トラック事業】

内	容
<ul style="list-style-type: none"> ・各班別ミーティング及び全体ミーティングにて内容を重視しグリーン経営資料に基づき実施。 ■ 事故の少ないドライバーの育成 <ul style="list-style-type: none"> ○自分の運転ぶりへの評価が厳しい→「自分は運転が下手だ」と自己評価 ○日々の運転を振り返り、反省している→明日は「こうしよう」など考える ○生活管理がキチンとしている→休憩、睡眠、食事、健康管理など ■ 省エネ運転の取組 <ul style="list-style-type: none"> ○無駄なアイドリング防止 ○発進・加速はゆっくり(急発進・急加速) ○一定の速度で運転(波状運転) ○スピードを抑える(スピード超過) ○減速は早めに(直前のブレーキ) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・車両点検への取組みが積極的になった。今までは、整備士に依頼して自分で関心を持つことが無かったが、自己点検を日常から重視するようになった。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・再発防止への取組 ・事故発生→何が起こったのか→何故起こったのか→どうすればよいのか→対策は何か→再発防止への取組をミーティングへ提案(原因追求への取組) 	
<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン経営の環境関連教育を行うことによって従業員の環境に対する意識が高まり、オイル交換など積極的に取り組んでもらえた。 また、ドライバーへ自身の燃費状況を伝えることによってエコドライブを心掛けてもらえるようになり、昨年度よりも多少燃費が向上した。 ・従業員の士気の向上が見られる。エコドライブに対する意識が見られる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・月一の従業員との会議の時に各ドライバーに当月の燃費結果を渡すことにより、前の月よりも少しでも良くしようという意識が芽生えてきたドライバーが少しずつ増えたように感じる。 ・会社として結果が良くなったドライバーには何かしらの報償が出来れば意識するようになってくれるのではないかと考えています。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・従業員一人一人が、燃費向上のために何をすべきか考え、担当車両に興味を持つようになり、車両整備について意見交換を積極的に行い実行するようになりました。 ・各車両担当者が興味を持つようになりました。 ・難しい箇所の故障はどうにもなりません、オイル交換等自分たちで行える点検については各自が責任感をもって実行するようになりました。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・燃費の向上が多少改善された。 ・各車両別燃費(年間)の数値を社員に公開し、燃費に対する社員の意識向上に繋がった。 ・日々の車両点検、3ヶ月点検の確実な実施により車両故障件数が減少した。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・燃費は良くなったと思いますが、トラックの性能向上が要因かもしれません。 ・交通事故件数は、元々少なかったのですが、タイヤの摩耗・雪道走行の注意など、常に行っているのでは効果が出ていると思われません。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・社内で取り組みを共有していく中での燃費の向上。 ・燃費に対する意識はグリーン経営資格取得・更新において意識つけ効果があると感じている。社員、ドライバーたちもトラックに貼り付けるシールで取り組みを認識してくれていると思う。一方で荷主、お客様にはあまり認識はされておらず、資格を取得しているトラック業者を選択の理由にするほどではないように感じる。またGマーク(安全優良事業所)認定の助けになるところも良いところだと感じている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・これまで営業所に登録していた車両も本社登録に変更致しました。それにより、全車輛、全従業員が環境に配慮した高度に習熟しつつあり、会社全体として活動内容が向上している。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・事故件数の減少は、保険料の削減につながっており、人材確保および売上減少と経営環境が厳しさを増す中、利益の確保に大きく寄与しています。 	

【トラック事業】

内	容
	<ul style="list-style-type: none"> ・急発進・急加速・急ブレーキを控え、経済速度で走行したり、タイヤの空気圧を適正に入れた事で、燃費が徐々に向上しました。 ・毎月1回の車両点検、整備、清掃が習慣となり車両の故障や交通事故の減少に繋がった。 ・車両点検、整備を定期的に行うことにより、以前より大きく減少した。 ・自分の車両を大切に扱うことにより、交通事故は減少した。

【倉庫業】

内	容
	<ul style="list-style-type: none"> ・電気の原単位の削減 ①フォークリフト1台、新型車両へ入れ替え充電効率向上。 ②夏季倉庫内の吸気ファンを排気ファンへ変更し、冷房効率向上。 ③庫内温度が下がった事による機械の熱暴走率の低下。（部品の交換サイクルを延長）
	<ul style="list-style-type: none"> ・使用電力を可視化し、支店内で共有することで、省エネへの意識向上につながりました。 ・倉庫及び事務所内で整理整頓を行い室員及び現場従業員で4S活動に取り組んだ。 ・倉庫内での適切な貨物の配置により、フォークリフトの稼働率が下がることにより、ガソリンの消費とタイヤのすり減りが抑えられた。又、業務時間の短縮につながった。 ・SDG s グリーン経営推進会が発足出来、「みなとSDG s パートナー」に登録出来た。 ・今年度より別の者へグリーン経営認証を主として取り組んでもらうために引継ぎを行っていますが、後任の良い勉強の場になっております。 ・電気使用量を明確に把握することで、抜本的な改善の必要性を感じて、倉庫施設を水銀灯⇒LED照明に変えた。 ・倉庫内AブロックB、C棟、A出荷バースの蛍光灯をLEDへ更新（2022年12月19日完了）
	<p>倉庫電力使用実績</p> <p>2022年1月～4月合計 344622Kwh</p> <p>2023年1月～4月合計 306038Kwh 平均12%削減</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー使用に関する現場の意識向上に大きく寄与している。 「身近なもの」 アイドリングストップ、無人灯の減少、リサイクルの推進、紙使用の減少など 「計画的に推進するもの」 照明のLED化、バッテリーリフト推進、ノンフロン機器へ更新など
	<ul style="list-style-type: none"> ・主な取り組み 1) 不要箇所の消灯徹底及び、エアコン設定温度を適正な温度へ設定。 2) 事務所・休憩所エアコン省エネタイプへの更新 ・省エネに関する情報や知識が、導入計画を行う事で意識向上しています。 ・廃棄物の発生状況を把握することが、環境負荷の低減につながっています。 ・環境保全活動の取り組み状況を把握することが出来ています。 ・書類の簡素化に取り組む準備をしています（ペーパーレス化）